

リンゴコカクモンハマキの防除には適期に有効な薬剤を！

りんご研究所

近年、津軽地方のリンゴ園ではリンゴコカクモンハマキの被害が目立っています。多発園では従来から防除剤として利用していた有機リン剤やピレスロイド剤の効果が低下していることが明らかになりました。そこで、これらに代わる防除剤を用いた新しい防除体系を組み立てたのでご紹介します。

リンゴコカクモンハマキ



幼虫

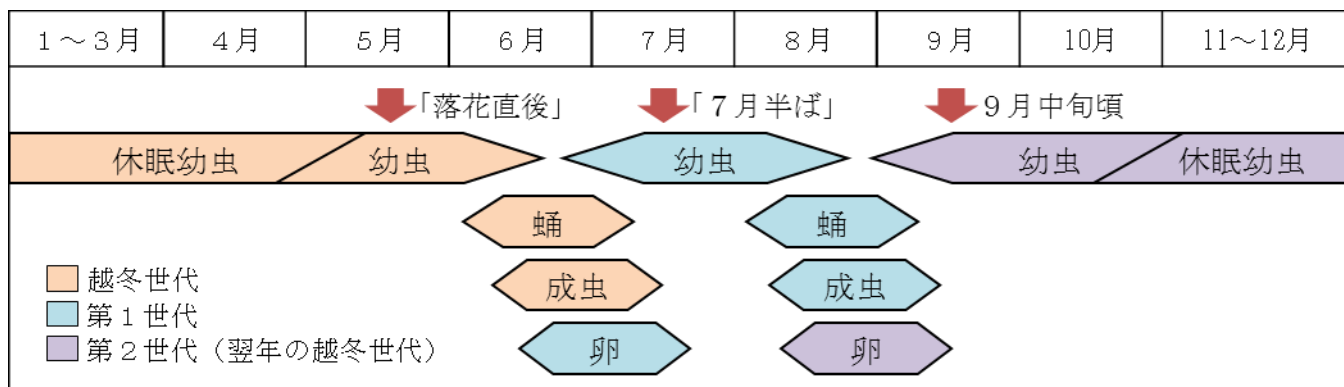


葉の被害



果実被害

リンゴコカクモンハマキは幼虫が葉を巻いて食害したり、葉が果実に接している隙間に潜り込み、果実表面も加害します。青森県では年に2世代発生します。殺虫剤の散布適期は春季に越冬世代幼虫が活動を開始する時期（「落花直後」）と、夏季に第1世代幼虫及び第2世代幼虫がふ化する時期（「7月半ば」及び9月中旬頃）の3回あります（下の図の矢印）。



リンゴコカクモンハマキの生活史

散布時期別の有効薬剤

各散布時期に効果の高い殺虫剤は以下の表の通りです。殺虫剤の連用は薬剤抵抗性発達の要因となるので、発生に応じて必要最小限の散布にとどめます。また、コンフューザーRやハマキコンーNなどの交信攪乱剤も積極的に利用して、発生密度の低下を図ってください。

散布時期	防除対象のステージ	リンゴコカクモンハマキ防除剤
「落花直後」	越冬世代幼虫	カスケード乳剤4,000倍又はアタブロンSC4,000倍
「7月半ば」	第1世代幼虫	サムコルフロアブル5,000倍 又はフェニックス顆粒水和剤4,000倍
9月中旬頃	第2世代幼虫	

お問い合わせ

りんご研究所・病虫部まで (TEL0172-53-6132)